

しおんだより VOL.52



当院における外科手術の位置づけと対象となる疾患

当院は、もともと、大阪市立大学（現大阪公立大学）医学部の第一外科出身の先生が、50年ほど前に設立されました。そのためか、手術室は比較的広く設計されています。

私が赴任した10年ほど前は、胃がんや肝臓がんの手術も、大学の医局から応援医師がかけつけて施行していました。ただ、当院が地域で果たすべき役割をか考えれば、このような大きな手術は、大病院に任せ、その後、自宅への復帰までのリハビリテーションなどを担うべきだと考え、手術は縮小方向にありました。

ただ、その一方で、大きな病院では実施しにくい、外科的な処置（手術）がいるという疾患があるのも事実です。現在、当院では、整形外科手術の他、腹腔鏡下胆嚢摘出術や、鼠径ヘルニア手術、大腸がん手術などを施行していますので、ご相談下さいませ。

この日は、消化器科の生島裕文医師が術者、呼吸器科の太田三徳医師が助手を務めて、腹腔鏡の手術が行われていました。

今年も、無事(?) 新年会を開催しました

職場でチームワーク良く行動することは、患者さんに質の高い医療を提供するためには不可欠ですが、そのためにも、職場を離れて、みんなで話をしながら食事をいただくということはとても重要だと思えます。

しかし、コロナ禍という言葉は、少し前のような記憶がありますが、病院のスタッフが集まって、食事をするということは、万が一、そこで感染が起こってしまったら…という懸念から、ここ数年は、ほとんど行われなくなりました。

昨今、当院ではグローバルスタッフ（外国人人材）が多く活躍していますが、彼ら彼女たちとも、ざっくばらんに話をするには、とても大切だと思い、先日、大阪市内のホテルでちょっと遅めの新年会を開催しました。私も各テーブルを回って、スタッフ一人一人と言葉を交わしましたが、やっぱり、こういう場面が大事だなと痛感しました。



旧大阪大学第一外科のメンバーに、当院の看護部幹部が加わってパチリ。

お初天神の豆まき神事に参加しました！

今年は、立春が例年よりも1日早く2月3日でした。そのため、節分は2月2日だったのですが、ひよんな事から、お声をかけて頂き、豆まき神事に参加することになりました。

場所は、大阪・キタ、阪急東通り商店街の南端あたりに位置する露天神社。通称、お初天神です。

夕方6時半から、4回、豆をまくメンバーが交代して行のですが、第1組は、地元の国会・府会・市会の議員さんたちがメインで、とても盛り上がりました。

私は第4組ということで、ひょっとして境内はガラガラになってるんじゃないかと心配しましたが、全くの杞憂でした。ぎっしり境内を埋め尽くした善男善女の皆様に、パックされた豆（今風ですね）を、司会の方のかけ声にあわせ、何度もまきました。終了後は、おぜんざいをいただいて帰ってきましたが、みんなで福を分け合った温かい気持ちになりました。（文責：狭間研至）



当日は、集まった皆様に向けて鬼は外！のかけ声にあわせて、「みなさんに福が訪れますように」と願いつつ、2階から豆をまきました。

しおんだより 第52号 発行日：令和7年2月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp